



国立病院機構の  
シンボルマーク



独立行政法人国立病院機構  
 **松江医療センター**  
**呼吸器病センター**  
 〒690-8556  
 松江市上乃木5丁目8-31  
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019  
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>  
 発行責任者  
 院長 徳島 武  
 編集者  
 事務部長 亀崎 卓夫



### 大山南壁

伯耆富士の異名をとる大山はかつて霊峰として崇められ、今は名峰として人々に愛されています。紅葉している鍵掛峠から見る大山南壁は雄大そのものです。

## もくじ

医療マネジメント学会島根地方会	2	青年共同宿泊研修 (江草・森山)	8
がん診療連携拠点病院に準じる病院	3	しじみ会 (七月七夕号 八月夏の号 九月初秋号)	8
外来管理診療棟整備計画	3	事務所の配置換え	9
第6回呼吸器市民公開講演会	4	親子ふれあいキャンプ	9
王子坂遺跡発掘調査展示	5	地域医療連携室だより 第6号	10~11
医療教育研修室から	5	外来診療表	12
G L A 留学記	6~7		

**基本理念** 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。

## 第10回医療マネジメント学会島根地方会開催

統括診療部長 池田 敏 和



平成23年9月17日にくにびきメッセにて、徳島院長が会長として日本医療マネジメント学会第10回島根支部学術集会在開催されました。

医療マネジメント学会は、クリティカルパスをはじめ医療安全、医療連携、電子化など検討する学会であります。今回のテーマは「高めよう地域医療連携と役割分担」とし、医療連携にテーマを絞りました。

長崎大学大学院医療情報学准教授 松本武浩先生には「長崎県におけるITを使った医療連携～あじさいネットでかわる地域医療連携～」の講演をしていただきました。どこでも自らの医療・健康情報を電子的に管理・リアルタイムに活用することで、「どこでもMY病院」構想を実現していました。現在は医療中心の地域医療連携ですが、今後は更に介護まで発展させ、医療から介護まで健康に関わる施設間でのシームレスなデータを共有可能にする地域医療連携を実現したいと話されました。

大分市やまおか在宅クリニック院長 山岡憲夫先生には、「大分市全体をホスピスに！ーチーム地域連携によるー」の講演をしていただきました。脳梗塞後遺



症、認知症やがん患者などが急速に増加し病院では対処できなくなり、これらの患者を在宅推進するのは時代の流れであるが、在宅医療の普及が進んでいないのは、医療者、特に病院スタッフの在宅医療・介護への知識のなさと共に、病院から在宅へのスムーズな地域医療連携とその多職種の役割分担が明確になっていないと指摘され、実際に行われた末期がん患者さまの在宅医療について実例を上げて講演していただきました。

シンポジウムでは、メインテーマである「高めよう地域医療連携と役割分担」について、行政、急性期病院、慢性期病院、介護のそれぞれの立場より現状と問題点を討議していただきました。以前のような「病院完結型医療」より「地域完結型医療」に移行しており、病院、医院、介護での情報の共有化が不可欠であり、



どのような情報を、どのように共有するかを検討しながら地域連携を推進しなければならないとそれぞれの立場より論議されました。松江市内では5大がんを中心にクリティカルパスを利用した地域医療連携が始まったばかりです。長崎県のようなITを使った地域医療連携は参考になりますが、IT化には時間がかかるものと思われました。

更に、昨年よりも多い350人を超える参加があり、ポスター発表や一般講演で、各医療機関での各種の課題の研究が昨年より多く発表があり、安心・安全な医療を提供するため「医療マネジメント」への関心が高まっていると感じられました。

最後に、ボランティアとして多数の職員の皆さまのお力添えを得て、学術集会を無事開催することができ感謝申し上げます。学術集会で勉強したことを発展させ、より安心・安全な医療を提供しましょう！。



## がん診療連携拠点病院に「準じる病院」の指定を受ける

企画課長 長島 潔

松江医療センターが7月28日付で島根県では初となる、がん診療連携拠点病院に「準じる病院」の指定を受けました。

国の指定する『がん診療連携拠点病院』は5大がんの診療実績ほかの要件を満たす施設として二次医療圏ごとに原則1施設が指定されていますが、松江医療センターは要件である常勤放射線科医師、専任看護師の配置などを満たしていませんでした。ただし肺がんの診療実績は際だって多いことから、島根県が行っているがん登録事業をはじめ、がん診療ネットワーク協議会にも拠点病院と同時期から参加してきました。

島根県はがん患者の働きかけにより平成19年に都道府県で初の「がん対策推進条例」を定めた、がん政策の先進県です。先般、平成22年4月診療報酬改訂で「がん診療連携クリティカルパス」が拠点病院等の専門病院と地域の医療機関で活用され充実した連携ができるように点数化されました。その際、都道府県が「地域においてがん診療の中核的な役割を認めた」専門病院を「準じる病院」として算定できるようになりました。しборりの多い拠点病院以外にも連携パスの活用範囲を広めるよう配慮された措置ということができ

ます。ただし都道府県が指定するにはまず条例の・指定要綱整備が必要になります。

平成22年11月、愛媛県で作成された「準じる病院」の指定要綱を、島根県がん対策スタッフにお持ちし、がん政策の先進県である島根県でも「準じる病院」指定要綱を是非作成してくださいとお願いしました。それから半年後、県の指定要綱が整備され、肺がんの専門病院、「準じる病院」として松江医療センターが指定を受けました。

島根県では5大がんの「がん診療連携クリティカルパス」が今夏本格稼働を開始しましたが、この時期に間に合うようにご配慮いただきました、がん対策スタッフ始め健康福祉部の皆様に、この紙面を借り御礼申し上げます。



## 「外来管理診療棟」整備計画について

企画課長 長島 潔

院長の年頭挨拶でお知らせした「外来管理診療棟」整備計画の進捗状況についてお知らせします。計画は4月機構本部で承認され、整備予定地で発見された「王子坂遺跡」の一次発掘調査を終え、院内各部門で設計図の検討を進めてきました。9月末現在、平面図案がほぼできあがり、次の段階として各部門に必要な電気容量、給水排水、空調設備等を含めたプロット図の検討段階に入ってきています。

「外来管理診療棟」整備のコンセプトは患者とスタッフの動線短縮です。放射線・薬剤・検査・手術中材・リハビリ・ME・栄養・療育と5階建て病棟の行き来を短縮すること。そのコンセプトを実現するため、4月承認時には横に長いプランでしたが、次第に正方形に近づいたプランとなってきました。

玄関・外来の意匠も病院の顔であり非常に重要なところ。先行して整備を終えた施設を見学したり、図面の検討を通じて、診察室は広い面積を確保するよう修正しました。

救急入院時の受け入れ、車椅子での外出時に利用す

るもうひとつの玄関を5階建病棟との接続部に設けました。この玄関近くには売店やホットコーナー、テラス等のくつろげる空間を集めたエリアになっています。正面玄関から病棟へはこの明るいエリアを通過して直接行くことができます。

「外来管理診療棟」整備完了後は、体育館・プールを残して全ての建物を解体します。現在の玄関との間に広大な更地が出来ますが、そのうち病棟前には1万㎡ほどの丘陵を造成した緑豊かな庭園、芝生を巡る散策路を整備し、外来管理診療棟前には外来者の駐車場を配置する計画ですすめています。

あと約2年で図のように生まれ変わった松江医療センターが見えます。



## 第6回呼吸器市民公開講演会を開催

経営企画室長 山根邦夫



矢野修一

今年の講演会は、平成23年7月9日（土）に昨年に引き続き、くにびきメッセで開催されました。今年の開演日は梅雨の晴れ間でもありラッキーな年でした。

一般講演では、矢野副院長が「最新の抗がん剤治療」というテーマで肺がんが癌の死亡率第1位で今後も増加する傾向にあり、抗癌剤治療の重要性についてお話ししました。

次に、若林内科医長には「抗がん剤の副作用対策」として、以前の抗がん剤は吐き気、嘔吐などにより治療を断念せざるを得なかったのに近年では新規の制吐剤が相次いで発売され、吐き気、嘔吐のコントロールが飛躍的に向上した等の説明を受けました。

更に今回の講演からの新しい試みとして看護師を講師とした講演を取り入れ、テーマは「がん治療をうけ



若林規良

る患者へのサポート」として小原美紀子看護師が講演いたしました。

その内容は「抗がん剤はがん細胞のみに作用するこ

とはできず、正常な細胞にも作用してしまうため、嘔気、嘔吐、骨髄抑制、脱毛、下痢、倦怠感などの副作用が起こります。副作用の症状は薬の種類によっても違い、個人差があります。そこであらかじめ予想される状態について知っておくと、落ち着いて対応でき、実際に起きた時にも早く対処できます。肺がんの宣告を受け精神的に動揺の激しい中での治療開始になりますので、看護師は、できるだけ治療に対する不安が取り除けるよう優しく説明しています。治療や副作用についてわからない事は、遠慮せず、理解できるまで医師や看護師・薬剤師に尋ね、長期にわたるがん治療をみんなでサポートしていきましょう。」

とお話ししました。

今回、看護師が一般講演をするということで、松江高等看護学院の生徒30数名が来演され、授業の一環と



小原美紀子

して熱心に聞いておられました。

また、その他会場にいられた方からは、「抗がん剤治療、副作用対策また患者へのサポート等わかり易くお話しいただき大変よかったです。」とか、

「看護師さんの講演は新しい企画でよかった。」「初めて参加しました。現在父が肺がんで治療中です、参加してよかったです。ありがとうございました。」等沢山の激励のお言葉を頂戴いたしました。

今回は約200名弱の来場者でしたが、今後新たな企画でさらに多くの市民の方々に肺がんをはじめ、肺疾患に関心をもっといただき呼吸器病センターとしての当院の機能を今後ますます発揮できたらと思います。

## 王子坂遺跡発掘調査成果が展示される

庶務班長 小野 敏 幸

7月4日と5日の2日間、外来待合ホールにおいて王子坂遺跡発掘調査の展示がありました。

この発掘調査は、当院の外来管理診療棟の建替えが計画され、予定地内に遺跡がないか松江市教育委員会によって試し掘りが行われ、掘った土の中から土器が出土したため調査が行われることとなりました。遺跡の名前は当地の字名を取り「王子坂遺跡」と命名されました。調査した土地は平成22年10月までは病棟が建っていた場所です。



発掘現場



出土した土器のかけら



甕と高坏の一部



説明風景

### 医療教育研修室から

## -ルーチンワーク再考、そして一歩前へ-

呼吸器科 門 脇 徹

本号に私のLA留学体験記が載っていることと思いますが、この原稿はLAのアパートで書いております。当たり前ですが、今流れているTVは全て英語(笑)。7-8月のLAでの研修は素晴らしい経験となりました。医師としても人間としても…初めの1週間は心細く、正直少しだけホームシックになったのですが、日増しに楽しくなり、本当に充実した2ヶ月の研修になりました。行かなかったら一生後悔したと思います。本当にありがとうございました。

LAで得たことは英語力や研修だけではありません。一人の時間が多くとれたこと。これは大きかった。国際学会への出張経験も何度かありますが、これは1週間程度ですから、日本を離れたとしてもやはり仕事の延長線上です。今回のように2ヶ月間も仕事から離れ、日本から離れるという体験をすると本当にいろんなことが見えてきました。これまでの自分の仕事をゆっくり振り返ったり、これからの仕事にいろいろ思いを馳せてみたり…。そして人生についても。私の座右の銘は“Keep on running!”なのですが、こんな風に一度立ち止まることもホントに大事なんだなぁと痛感いたしました。思えば働き始めてからの12年間走りっぱなしでした…。自分がやってきたことには少しムダやムリがあったかもしれない…。帰国したらもう少しこうやってみよう!などのカイゼン策が頭にたくさん浮かんできたのです。こうして自らを俯瞰できた分、自分として“一歩前へ”いけた気がしています。

松江市出身で神戸大学医学部教授の岩田先生の近著「1秒もムダに生きない」(光文社新書)にこのような一文があります。『毎日のルーチンワークを忙しく繰り返していると、「思考停止」に陥ってしまいます。それ以外の発想がまったくくんでこなくなるのです。』と。日々真っ直ぐに突き進むのも重要なことなのですが、ふと立ち止まることもまた重要なのですね。

さて、何が言いたいのか?と思った方に質問です。

“ルーチンワークの虜になっていないでしょうか?”  
確かにルーチンワークをこなせば、その日は終わります。家に帰れるのです。しかし、それでよいのでしょうか?もし、それでいいのだという方がいらっしゃれば、その考え方はprofessionalではない、と私は思います。一度立ち止まって考えてみましょう。例えば、“何気なくこなしているルーチンワークにムダはないのか?”とか“本当にこの患者さんにこのルーチンワークが必要なのか?”とか、“今のこの仕事のやり方は本当に意味があるのか?”などなど…。そう思ってみるといろんなことが疑問に湧いてくると思うのです。その疑問を解決すべくどんどん実行に移していくことが重要なのです。そうすればみんなが“一歩前へ”行けるはず。そこには必ず学びが発生します。そして教育も発生することでしょう。研究のネタになるかもしれません。職員の皆さんには“ルーチンワークの虜”となって“思考停止”してほしくないと願っております。大事なことは実行に移すことなのです。

医療教育研修室はどうでしょうか?自らの試みに反省を加え、不要なものは「断捨離」し、必要なものを取り込んでいます。教育のルーチンワークは存在しますが、時に立ち止まり、その虜にならぬよう日々前進しています。近い将来教育部門の再編を行うのですが、自らの組織形態も変えていくことになりそうです。“立ち止まってはカイゼン”が当研修室のスタイルです。

私が考える教育部門の理想は皆さんの“一歩前”にすること。その理想に近づくためには、医療教育研修室長である私自身がそれよりも“前へ”行かないといけません。2ヶ月間ゆっくりと考えさせてもらった分、帰国した後は、再びengine(少しトルクが増したかな?)をかけて“Keep on running!”していくつもりです。さぁ皆さんも一緒に“一歩前へ”行きましょう!



## GLA留学記

呼吸器科医長・医療教育研修室長 門脇 徹



GLA外観

Hi, everyone! How are you doing?

7～8月の2ヶ月間、Veterans Affairs West Los Angeles Medical Center（いわゆる退役軍人病院のひとつ。以下GLA。）で研修をしておりました。GLAは退役軍人を手厚くサービスするという目的を持った病院のうちLos Angeles (LA)では最大の総合病院です。さらにすぐ近くにUCLAがあるためそのresident（研修医）もGLAで研修し、そして医学生も臨床実習をし、さらにCedars-SINAIというセレブ病院からもたくさんのresident（GLAにはresidentは合計130人以上！）を受け入れています。このように教育にも非常に熱心な病院です。

国立病院機構には「専修医海外研修事業」という短期留学の事業があります。私は医者になったころから海外留学をしてみたいと思っていましたが、chanceがなくかなわず。そんな私にとってこの事業は非常に魅力的に映りました。早速応募し、書類選考と英語の面接試験を経てGLAでの研修ということにあいなり



Palliative care teamの皆さんと

ました。今年度は2ヶ月間に2人ずつ、4回にわたり（合計8人）が、GLAに派遣されますが、その第1陣として行って来た、というわけです。

私は呼吸器内科医ですので、呼吸器を中心に下記の4診療科（チーム）でのローテーションを希望しました。また医療教育研修室長という立場ですので、教育部門もローテしてきました。

- ①Palliative care team（緩和ケアチーム）
- ②Physical Medicine/ Rehabilitation（身体医学・リハビリテーション）
- ③Hospitalist/ Education（教育部門（ホスピタリスト養成部門））
- ④Pulmonary/Critical Care Medicine（呼吸器内科・集中治療）

の順にそれぞれローテしました。アメリカでの医師免許を持っているわけではないので残念ながら医療行為はできません。positionは“visiting physician”。手技を行うことはできず、見学がメインでしたので見ていてやきもきする場面もありましたが、カンファレンスや回診に参加し、いろんな光景を見てきました。その中では意見を求められることもあり、なかなか緊張の連続の日々でした。

まずは緩和ケアチームでの研修。時差ボケが残る中、English showerの洗礼を受けました。集中して聞いている間は、何となく理解できるのですが、なかなか集中力が持たず、ぼんやりしているといけなくなります…。それでも緩和ケアチームの先生やスタッフの患者さんに対する真摯な姿勢、痛みをいかにとるかということにかける真剣さ、痛みだけでなく精神的ケアなど、患者さんを“包み込むような”チーム医療は非常に印象に残りました。そしてさらに印象的だったのはchiefであるDr. Rosenfeldの言葉…。

“我々の仕事は、終末期を迎えた患者さんとその家族に迎えたい『最期の絵』を描くことなんだ”。すばらしいチームでした！

次のローテはPhysical Medicine/Rehabilitation。日本語でいうとリハビリテーション部とでも言いましょうか。アメリカでの呼吸リハをみたかったのですが、私がローテーションしている間は症例がなく、この点は残念。しかし、wheel chair clinicや週に一度の回



Santa Monica Pier

診では、様々な職種が患者さんに関わり、“チーム医療”を実感できたことは非常に印象的でした。

そして院内教育部門。GLAには若いDrが本当にたくさんいます。日本の大学病院より明らかに多いでしょう。1-3年目のresidentやそれ以上の7-8年目くらいまでのfellowと呼ばれるDrが山ほどいます。それぞれの診療科やチームできちんとした教育がなされているのですが、この部門はHospitalist（米国で重要性を増しつつある病院医療の総合医。臨床能力に優れ、教育・研究に熱心であり、チーム医療のリーダーとして病院医療の質を高められる人材。）を養成する部門であり、attending（常勤医で専門医の資格を持つ）の先生がfellowやresidentや学生をまとめてチームを作り、教育をしておりました。fellowはresidentに教え、residentは学生に教える。経験のあるものがないものに教え、ないものはあるものに積極的に聞く。いわゆる屋根瓦式の双方向の教育の光景を見ることができました。またUCLAのHospitalist/Educationの先生を紹介していただき、半日ではありましたが、大学での医学教育も垣間見ることができました。メディカルの教育には触れることができなかったのは残念でしたが、教育に対する真摯な姿勢と情熱を見ることができたことは自分にとっては大きな収穫でした。知識・技術の習得におけるハングリーな姿勢は見習わなければいけないと痛感いたしました。

最後が待ってました呼吸器内科。日本ではICU（集中治療室）は麻酔科や救急のDrが管理するのが普通ですが、アメリカでは違うようです。呼吸器内科と集中治療はセットです。他部門をローテした時にも質問されましたが、自分が呼吸器内科医であることを告げると『ICUも診るのか？』と必ず聞かれました。“ICUは診てないけど、ICU likeなことはしている”という、『呼吸器だもんね』という感じで理解してもらっ

ていました。診療レベルについてはさほど変わらないと思いましたが、Drがホントによく勉強している印象を抱きました。EBMに基づいた診療をしっかりと行っているんですね。自分自身もっともっと勉強をしていかないといけないと痛感した次第です。

研修全体を通しての感想を。まず1つ目。GLAで行われているのは正に「チーム医療」です。業務がかなり分業化されていました。日本より医療系職種が多いようです。患者さんやその家族に生じる問題があれば、様々なその領域のprofessionalが登場します。そしてチームとして問題を解決していく…。そのような場面にたくさん遭遇しましたし、見ていて清々しさを感じました。動きが早いのです！2つ目は教育について時間や手間をいとわないこと。院内のあらゆるところで、教育が行われています。医療現場における教育の充実度は医療レベルの高さと相関している、と思いました。紙面の都合上、具体例を示すことはできませんが、アメリカの医療と日本の医療の違いも実感できましたし、なによりも2ヶ月という長期間LAで生活するという一生の思い出になる貴重な時間を経験させていただくことができました。

最後に…。

GLAの担当の方々、GLAに派遣していただいた国立病院機構本部の担当の方々に感謝いたします。そしてGLAでの研修について私の背中を押してくださった院長の徳島先生・副院長の矢野先生、不在の間、代医をしていただいた呼吸器科・小児科の諸先生方、当院職員の皆様、そして、診療の上でご心配をかけた患者さんとそのご家族に心からの感謝をして筆をおきたいと思います。

この経験が今後の当院における診療・教育・研究のレベルアップにつながるよう、日々精進を続けて行きたいと思います。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



Griffith天文台

## 青年共同宿泊研修

事務部企画課経理係 江草 慶一

9月6日から9月9日までの4日間、機構本部と富士山で青年共同宿泊研修に参加しました。全国から各職種60名程度しか参加できない研修ですので、この度は貴重な機会を頂いて大変ありがたく思っております。1日目は機構本部で機構の経営や展望についての講義を受け、2日目以降は富士山で接遇とQC活動についての研修を受けました。講義と接遇については基礎的なことでしたがその大切さと難しさを改めて実感しました。あいさつや言葉遣いなど、普段から意識して気をつけたいと思います。また、QC活動については、私にQC活動についての知識や経験がほとんどなかったので非常に為になりました。具体的なQC活動のやり方を聞き、グループ活動もあってよい勉強になったと思います。ところで、本研修は30才未満のみ参加なので、同世代同士で楽しく過ごせる時間も多くありました。まず、2日目には富士の5合目から双子山までの登山がありました。本部の当初の説明では「初心者向けの平坦なコース」とのことでしたがとても平坦とは言えない傾

斜が続き、残念な事に途中で脱落する人もいましたが、私自身は富士山自体が初めてだったこともあって楽しめたと思います。他にも屋外炊事でのBBQや飲み会も毎晩ありとても楽しかったです。本部の方が初日に研修で友達を作って欲しいと言われていましたが、やはり今回の研修は他施設の人と交流できた事に1番の意味があったのではないのでしょうか。私も他施設、他職種の方と色々な話ができて少しは視野が広がった様な気がします。今回の経験を生かして、将来の機構を支えていけるような人材になりたいと思います。



療育指導室 保育士 森山 智子

9月6日～9日の4日間、平成23年度青年共同宿泊研修に参加しました。この研修の日程は、国立病院機構本部での研修から始まり、2日目以降は静岡県御殿



場の国立中央青少年交流の家での研修でした。

QC活動についての研修では、班別に分かれ、他職種のメンバーと一つのテーマに対し意見を出し合いました。討議、統計図等を作成していく中で、他職種の業務理解にもつながりました。また患者接遇の研修では、言葉、態度、表情、動作等の様々な要素が、良くも悪くも患者さんへの印象さらには安心感を左右することを学び、改めて振り返ることができました。今後の患者接遇につなげていこうと思います。その他、双子山のバスハイクやグループワークでの屋外炊飯では、みんなと楽しく交流を深めることができました。全国の同世代の他職種の仲間と過ごしたこの貴重な研修で得た経験を、これからの仕事において活かしていきたいと思います。そして、この研修で仲良くなった仲間との交流を長く続けていきたいと思っています。

### しじみ会 (七月七夕号 八月夏の号 九月初秋号)

リハビリテーション科 作業療法士 三井 貴史

- ・夕立に 涼しさホッと 虹が出て  
となりの住人
- ・笹百合の 匂い懐かし 散歩道  
やどかりさん
- ・七夕祭り 心の筆で 願い事  
永島さん
- ・燃えた夏 甲子園が 満員御礼  
[K] さん

- ・ビールから あふれ出すのは 泡と笑み  
京の静さん
- ・見上げてる 夜空の大輪 祈りこめ  
白イルカさん
- ・押し花に ささやきかけて 癒されて  
川上さん



## 事務所を配置換えしました

管理課長 荻田 正人

おはずかしい話ですが、事務所に来た職員及び業者の方から、事務所を覗いても背面から入るためか、声を掛けてもなかなか反応してくれないとの意見がありました。

そのため、少しでも接遇が良くなるようにとの意見から、事務所の配置換えを行う事になりました。配置換えをすと言っても、あと1年半で職場は移転するのですから、大胆な配置換えをするのは時間も経費も勿体ないですから、出来るだけ少ない移動で他の部署の人に気配りできる配置換えということで考えました。

パソコンの配線もあり職員だけの考えでは配置転換が難しいため、変更レイアウトは業者の方に依頼しました。そして作成されたレイアウトを事務所の職員が確認し決定となりました。出入り口が東西にあるのに対して、従前は机の配置が管理課、企画課共に南北に机を配置していたため奥にある課に行くのが不便でしたので、今回取り入れた配置は事務所の中央に通路を確保することでした。このことにより目的の担当者の所にスムーズに行くことが出来るし、担当者の後ろでなく横で声を掛けるこ

とが可能になります。

配置換えは9月の第1土曜日に行いました。事務所全員が8時半から作業に取り掛かりました。まず机や棚の上の書類や棚の中の書類や本の整理を行いました。事務所の真ん中に通路を設けた分だけ机や棚を置く場所が無くなるわけですから、いらぬ物を処分しなければなりません。廃棄された書類は台車で何回も外に運び、使わなくなった机等は倉庫に移動しました。机を動かすと前回掃除をしたのは何時なのかと驚くほどの埃が出てきました。設備配線の切り回しが終わり、レイアウトどおり机の配置が完了したのは午後3時でした。

月曜日に事務所を訪れた職員はみんな「どうしたんこれは」とか「いつ移動したん」と驚いていました。配置換えにより課内が二つに分断され、隣にいた職員が離れたため連絡する際声を大きくするか席を立たなければならなくなりましたが、他の職場の者からの感想は移動しやすく良いとの意見をいただいていますので、一応一安心しているところです。

## 親子ふれあいキャンプ開催

療育指導室水泳指導員 小笠原 美 幸



7月23日(土)～7月24日(日)の両日、当院のプールを利用して「平成23年度親子ふれあいキャンプ(水泳指導)」(日本筋ジストロフィー協

会中国地方本部主催)が開催されました。

今年は3家族(患児3名)家族、役員、スタッフを合わせ35名が参加。やや小人数ながら初参加の子どもたち2名を含め、賑やかに始まりました。

開会式後、健康チェックを経て親子、スタッフとともに、ハロウィック水泳法による水泳指導を行いました。ハロウィック水泳法はマンツーマンでゲームプログラムを中心に楽しむことを重視します。プールがこわくて不安そうにしている子や、自分から水遊びをする子など、いろいろな子ども達と基本プログラムを中心に指導を行いました。始めは怖がっていた子も顔つけができるようになったりして、上がる頃にはどの子にも笑顔が見られた1日目でした。

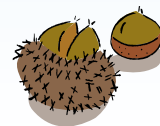
今年の交流食事会には、知る人ぞ知る「玄さんのうどん」の、大島まつきさんにわざわざ名古屋から来て

いただきました。大島さんは、自らも筋ジストロフィーながら、愛車にうどん作りで必要な道具を積み込み、全国を飛び回りうどん作りを楽しんでもらう活動を続けていらっしゃる方です。子どもたちや、スタッフみんなで粉からこねたこだわりの手打ち讃岐うどんを堪能しました。焼き肉あり、おにぎりありの、大満足の食事会でした。夜には藍染めのTシャツ作りに挑戦!花火大会もあり、親子・スタッフとものとも楽しい時間を過ごすことができました。

2日目の水泳指導では補助なしで背浮きができるようになった子もおり、1日目とは見違えるような表情を見せてくれました。これからもどんどん水に親しんでほしいと思います。

また今年、ブラジルからジャイカ研修員として、北海道の国立病院機構八雲病院に留学している仲宗根純子シルビアさん、八雲養護学校の先生2名にも参加していただきました。このような指導法を取り入れた水泳はみなさん経験がなく、またバラエティーに富んだレクリエーションの数々に感激ひとしおのようでした。

最後にとてもステキにできあがった藍染めTシャツを着て、元気よく終了することができました。



# 地域医療連携室だより 第6号

2011年 10月



## ～ 特殊外来のご案内 ～

当院 特殊外来について「地域連携室だより」の中で少しずつご紹介していきます。

小児科発達専門外来	肺がん検診	睡眠時無呼吸外来	息切れ外来
喘息アレルギー外来	慢性咳嗽外来	禁煙外来	アスベスト外来
嚥下障害外来	神経難病外来	筋ジストロフィー外来	セカンドオピニオン外来

今回は、「禁煙外来」をご紹介します！

### 禁煙外来のおはなし

呼吸器内科 木村 雅 広

タバコは体に悪いってわかってはいるけど、やめられない...

それは、御本人の意志が弱いからではなく、ニコチンの持つ強い依存性が原因とされています。

これを「ニコチン依存症」といい、喫煙者の70%はニコチン依存症ともいわれています。

そのため、平成18年度から健康保険を使って、ニコチン依存症の治療（禁煙治療）が可能になりました。

島根県のホームページによりますと、保険適応の禁煙治療を行っている施設は、松江圏域では25医療機関もあるそうです。

当院は平成18年6月から施設内を全面禁煙にし、禁煙治療を実施して参りました。以前は竹山副院長が1人で担当しておりましたが、退職に伴い平成22年度から、木村・小林・若林の3名の医師で分担して毎週木曜日に開設しております。

患者さんが健康保険等で禁煙治療を受けるには、以下の①～④すべての要件を満たす必要があります。

- ① 直ちに禁煙をすることを希望している
- ② ニコチン依存症を診断するテストで5点以上（診察前にテストをします）
- ③ 1日の平均喫煙本数×喫煙年数が200以上
- ④ 禁煙治療を受けることに文書で同意している（外来でサインを頂きます）

費用（自己負担3割として）は、処方される薬にもよりますが約3ヵ月で12,000～18,000円程度です。高いと思われるかもしれませんが、1週間あたりでは約1,000～1,500円となり、毎日1箱タバコを吸う方なら、約2～3日分のタバコ代に相当します。それで禁煙出来るのなら、そんなに高くはないかな？と思われる方もいらっしゃると思います。

受診される方の約半数は、ご自分の意志で当院を受診された方です。昨年はそのインパクトの強い「館ひろし」のCMが禁煙外来の追い風となってくれました。平成22年10月からのタバコの大幅値上げをうけて、受診される方も一時は非常に増加しました。

治療薬は、ニコチンガム、ニコチンパッチに加えて、平成20年5月から内服薬が登場しました。この薬はニコチンを補充するのではなく、頭の中でニコチンの様にふるまい、ニコチン切れ症状を軽くし、タバコをおいしいと感じにくくする働きがあります。これにより禁煙成功率が向上するとされています。

当院の平成22年度の治療実績は、12週間治療を完遂した方の禁煙成功率は83%と高いのですが、受診された全ての方でみると成功率は63%程度にとどまっています。これは途中で喫煙してしまうか、何らかの理由で来院が途絶えてしまう方がおられるため、フォローも行っておりますが、このような方の再診率を向上させるサポート体制を充実させる必要があるように思います。やはり当院の禁煙外来が木曜日のみという点ですが、受診する方にはややハードルが高いのかもしれませんが。

また、わたしはタバコを一度も吸ったことがありません。喫煙経験がない医師に禁煙指導されても説得力がないのかも、と思ってみたり... でも肺の病気の怖さは痛いほど分かっているつもりです...

禁煙治療を始めたい方に、25医療機関の中から選んでもらえるよう、魅力ある禁煙外来にするにはどうしたらいいのか?何かいいアイデアがありましたら、拝借したいところであります。

### 紹介率・逆紹介率の推移



### 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	36人	39人	40人	40人								
退院先												
在宅	5人	6人	6人	6人								
施設	3人	0	0	0								
病院	5人	3人	5人	4人								



# 外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成23年4月1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 石川 成範	【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー 呼吸器一般
	若林	若林			木村		
循環器内科	石川		石川			【循環器内科】 石川 成範	循環器内科一般
消化器内科	三原				石原		
神経内科		下山		足立芳樹		【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
外科	徳島		目次		荒木		
小児科	久保田(予約)	齋田(予約)	齋田(予約)	久保田(予約)	齋田(予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香	重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
	齋田	久保田(予約)	久保田	齋田	久保田		
発達専門外来						【麻酔科】 足立 洋心	麻酔科・呼吸器外科・一般外科
予防接種							
特	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 足立 洋心	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科担当医(予約)		
殊	息切れ外来		呼吸器内科担当医(予約)			【小児科】 齋田 泰子 久保田智香	重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
	喘息アレルギー外来	若林(予約)			池田(予約)		
外	咳嗽外来	若林(予約)				【麻酔科】 足立 洋心	麻酔科・呼吸器外科・一般外科
	禁煙外来				毎週木曜日呼吸器内科担当医(予約)		
来	アスベスト外来		小林(予約)	木村(予約)	門脇(予約)	診療時間 8:30～17:15 受付時間 8:30～11:30 自動再来受付 7:30～11:00	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
	嚔下障害外来		下山(予約)				
その他	神経難病外来		下山		足立	Matsue Medical Center	
	筋ジストフィー専門外来				下山(予約)		
その他	セカンドオピニオン外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		

特 殊 外 来	小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイクアでの遊戯療法も行っています。
	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査で6,300円)
	睡眠時無呼吸外	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息アレルギー外	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	嚔下障害外	診療日：毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来(要予約)
	神経難病外	診療日：毎週火・木曜日 8:30～ 神経難病外来
筋ジストフィー専門外	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色：筋ジスト病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。	
セカンドオピニオン外	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジスト)の専門医(医長)が担当いたします。	